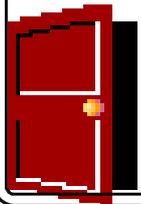


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年9月6日 文責 渡邊

『読書推せん文コンクール』の作品紹介！

今回は、第2学年、第3学年、第4学年児童の作品を紹介いたします。

第2学年 かねこ ちか

◆すすめたい相手 せかいじゅうのおかあさん

◆本の題名『たいすき ぎゅっぎゅっ』（いわさきしよてん）

うさぎのおかあさんとうさぎの子どもが、いろんなときに大すきぎゅっぎゅっをするお話です。

なぜ、すすめたいかという、この本をよむところがスッキリするからです。うさぎのおや子は、1日になんどもぎゅっをします。ねるときは、とくべついっぱいぎゅっをします。

わたしは、おかあさんとぎゅっとするのが大すきです。ぎゅっすると、ころがぼかぼかしてきもちがよくなるからです。だから、せかいじゅうのおかあさんに、この本を読んでもらって、ぎゅっぎゅっをたくさんしてみたいです。

※すすめたい相手が「世界中のおかあさん」というところが素敵ですね。「わたしは、おかあさんとぎゅっとするのが大すきです。ぎゅっすると、ころがぼかぼかしてきもちがよくなるからです。だから、せかいじゅうのおかあさんに、この本を読んでもらって、ぎゅっぎゅっをたくさんしてみたいです。」というまとめがとても温かい文章で表現されています。こうした気持ちが世界に広がると悲しい虐待の事件はなくなるのでしょうか。

第2学年 たなか あきな

◆すすめたい相手 ろくちゃん(かっていたねこ)

◆本の題名『こんとあき』（福音館書店）

この本はおたんじょう日におばあちゃんにもらいました。この本のしゅじんこうがあきという名前です。わたしと同じ名前だったので、うれしくて大すきになりました。

この本は生まれた時から一しょにいて大せつにしてきたぬいぐるみがボロボロになってしまったので、ちりょうのために二人でおばあちゃんのところへたびに出かけるはなしです。

たびの中には、こわいことやしっぱいしそうなこともあったけれど、二人で力をあわせておばあちゃんのところへ行けてあんしんしました。あきがこんを大せつにしてるくらい、あきもろくちゃんのことはずっとずうっと大すきだよ。お空からあきのことを見まもってね。

※おばあちゃんからいただいた本をととても大切にしていることが伝わります。おばあちゃん、この本の主人公の名前とお孫さんの名前が同じだから選んだとしたら、とてもあきなさんのことを愛している優しいおばあちゃんですね。私も、自分の孫たちに同じ名前が出てくる絵本を贈りたくなくなりました。推せん文のまとめである「あきがこんを大せつにしてるくらい、あきもろくちゃんのことはずっとずうっと大すきだよ。お空からあきのことを見まもってね。」のところで胸が熱くなりました。図書のストーリーと自分の生活経験を重ねているところがすばらしいです。

第3学年 佐久間 綾

◆すすめたい相手 動物が好きな人へ

◆本の題名『ドリトル先生動物園』

『ドリトル先生動物園』は、ドリトル先生という動物としゃべれるおいしゃさんと動物たちがくらしします。おもしろいところは、なぞときがあったり、じけんがあったりしておもしろいです。

動物園では、おりのない動物園で動物たちがくらしします。動物たちが、ドリトル先生にむかしあった話をするのもおもしろいです。

ドリトル先生の本が作られたりゆうは動物となかよくしてほしいという思いがあるそうです。

ドリトル先生がたびをするのもおもしろいです。読んでみてください。また、ドリトル先生にはいろいろなシリーズがあるので読んでみてください。

※動物が好きな人には是非読んでもらいたいという思いが伝わってきます。動物と人間が仲良く生活することが大切なのだと気づかせてくれる文章です。私も『ドリトル先生動物園』を読みたくくなりました。

第4学年 石川 匠

◆すすめたい相手 時間の大切さを忘れてしまったぼくたちへ

◆本の題名『モモ』（岩波書店）

去年の夏、ぼくは『モモ』に出会った。

「時間どろぼうがいる」

お母さんがよく使う言葉。今までは何の事が分からなかったけれど、君に会ってやっと分かったよ。

でも、ごめんね。君との約束はまだ守れていない。時間どろぼうはてごわくて、ぼくにはなかなかたおせそうにないんだ。

「時は金なり」

お母さんが好きな言葉。時間はお金で買えないし、貯めておくこともできないから大切にしなければならぬんだ。

そうだ、もう一度『モモ』に会いにいこう。そして、勇気をもらおうんだ。時間どろぼうをやっつけて、ぼくたちの失われた時間を取りもどすために。

※とても温かな文章でまとめられています。『モモ』は、桑村小学校の校長室にも置いてあります。私は、教職に就いてからこの本を読みました。児童文学書ですが、大人になって読んだとき、「時間」の有する意味を深く考えさせられました。

最後のまとめの文章「そうだ、もう一度『モモ』に会いにいこう。そして、勇気をもらおうんだ。時間どろぼうをやっつけて、ぼくたちの失われた時間を取りもどすために。」が見事です。また、お母さんとの会話でのやり取りも生き生きと表現されていて素晴らしいです。

時間は、誰もが24時間もっています。24時間もあるのか、いや、24時間しかないのか、時間に対する感じ方は人それぞれでしょう。そして、同じ一人の人間でも、置かれた状況によって、長く感じたり、短く感じたり、感じ方は異なるものです。

さて、これからAI(人工知能)がますます発展し、私たちの生活環境はよりスマートになっていくでしょう。これからも限られた時間をいかに有効活用するのかは、私たち人間の永遠のテーマとなるのでしょうか。

第2学年、第3学年、第4学年児童の作品はいかがでしたか。第5学年、第6学年児童の作品は、次号のお楽しみということで、今回もお読みいただきありがとうございます。